

### 樽前山噴気活動

主要噴気である A 火口の SO<sub>2</sub> 放出量は 2004 年に急上昇した後は低下傾向であるが、総放出量の測定値が少なく全体傾向の把握は今後の課題である。噴気温度は A: 600°C、B: 4–500°C で安定しているが、いずれも 2008 年から 2012 年にかけて、CO<sub>2</sub>/S 比、H<sub>2</sub>O/S 比が増大し、δ<sup>18</sup>O が低下しており、天水等の影響が増大していると考えられる。

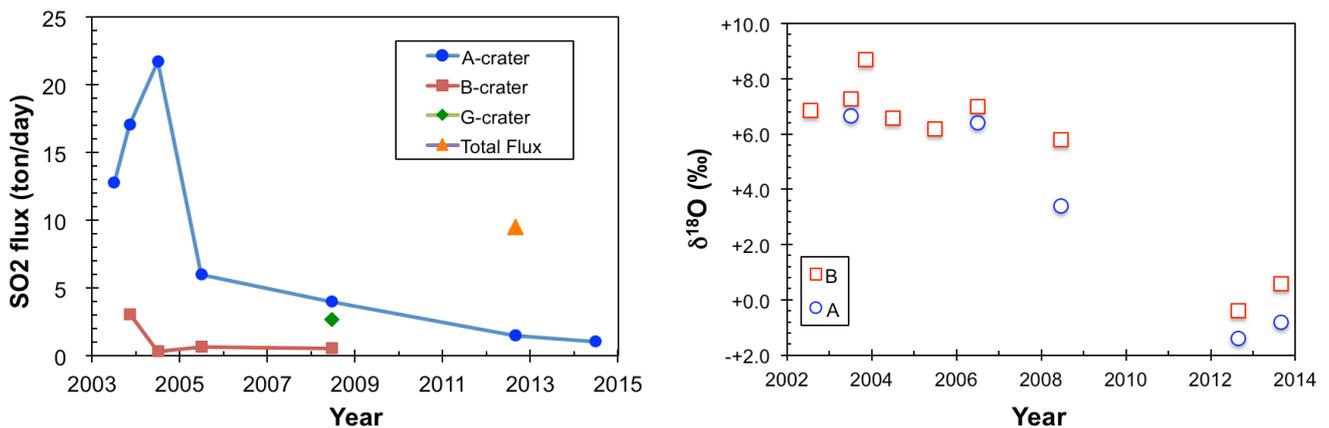


図 1 左 SO<sub>2</sub> 放出量変化、右火山ガス凝縮水の酸素同位体比変化

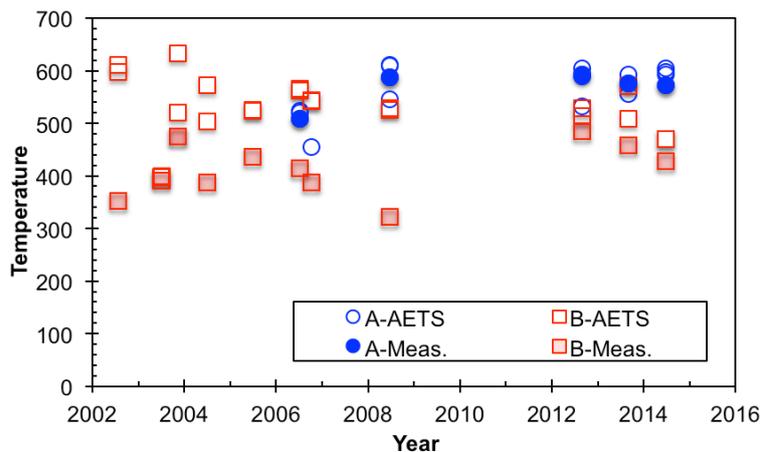


図 2 噴気孔温度 (Meas.) および見かけの平衡温度 (AETS) の変化

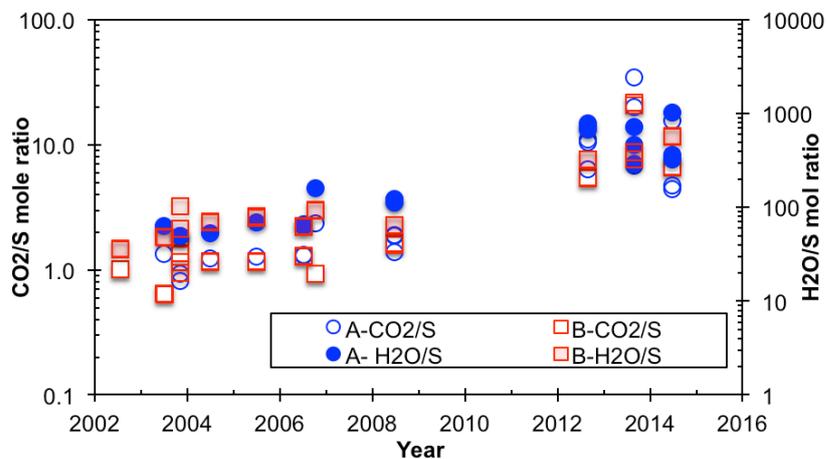


図 3 火山ガス組成の CO<sub>2</sub>/S 比および H<sub>2</sub>O/S 比の変化